

私は、本土の人間として、  
 沖繩とどう向き合うのかを考  
 え続けている。辺野古埋め立  
 てに関する県民投票の結果  
 は、新基地に反対する圧倒的  
 な県民の意思を示した。これ  
 を受けて、本土の人間も沖繩  
 の負担について考え  
 るべきだという論調  
 がある。だが、何を  
 考え、どう振る舞え  
 ばいいのか。

辺野古に基地を造  
 らなければ普天間が固定化す  
 るという心配をする人もい  
 る。普天間基地は一刻も早く  
 なくしたい。同時に、辺野古  
 に新基地を造ってほしくな  
 い、というのが県民の共通し



柳沢 協二

## 論壇

た思いだ。  
 では、普天間基地を本土で  
 引き取ってほしいのかと言え  
 ば、それも違う。自分の所に  
 あつてほしくないから本土に  
 持って行けというのが沖繩の  
 思いであるはずがない。基地  
 思いであるはずがない。基地  
 思いであるはずがない。基地

### 本土は何を考え、なすべきか

## 沖繩からの基地撤去、共有を

に脅かされ、基地に翻弄され  
 る暮らしたくないという  
 ことだろう。  
 それなら、本土の人間が考  
 えるべきことは、どこか本土  
 で引き取るということではな  
 く、沖繩から基地をなくせと

いう思いを共有することだ。  
 沖繩に要らない基地は本土に  
 も要らない、本土に置けない  
 基地は沖繩にも置けないとい  
 うことに軸を置いて考えるこ  
 とだ。  
 それで日本の防衛は大丈夫  
 ではない。まして今は、ミサイ  
 ルの戦争だ。地理に関わりな  
 く、軍事的に重要な場所が攻  
 撃対象になる。沖繩が防波堤  
 となつて本土が守られるよう  
 な幻想を持つてはいけない。  
 だから、そこに米海兵隊が  
 いることは、防衛上、何ら重  
 要ではない。まして、日本を  
 取り巻く戦争の危険は、日本  
 自身がもつてになっているわけ  
 ではなく、米中あるいは米朝  
 の対立関係におおもとがあ  
 る。米軍の駐留は、何もなけ  
 れば抑止力かもしれないが、  
 何かあればかえつて火種にな  
 りかねない。軍隊の存在とは、  
 本来そういうものだ。  
 そもそも防衛とは、何を守

か、という心配はある。しかし  
 万一、外国から攻撃されるこ  
 とがあれば、沖繩だろうと北  
 海道だろうと、日本が一丸と  
 なつて守るのは当たり前のこと  
 だ。それは日本自身の問題  
 であつて、米軍に任せること  
 るのか。国民の平穏な暮らし、  
 そしてまっとうな民意が尊重  
 される国を守ることではない  
 のか。防衛のためと称して国  
 民の日常を破壊し、民意を無  
 視するならば、それはもはや  
 国民のための防衛ではない。  
 沖繩も本土も、そういう政治  
 を何とかしなければならぬ  
 という共通の課題を背負つて  
 いる。

新外交イニシアチブ(ND)  
 は19日午後7時から沖繩市民  
 小劇場あしびなーでシンポジ  
 ウム「沖繩の未来を拓くー安  
 全保障・経済の観点から」を  
 開く。  
 (東京都、元内閣官房副長  
 官補、ND評議員、72歳)